

# 東南アで生産、販売強める

中央パッケー  
ジング工業 現地法人相次ぎ設立

中央パッケージング工業（大阪府八尾市、菅野充基社長）は、3月のタイに続き、5月にバングラデシュに現地法人を設立する。ハンガーやパッケーシの現地調達に因應する体制を築き、日本、上海との連携も強化して、東南アジアでのビジネスを本格化する。

同社はハンガーの製造卸を主に1981年に設立された。現在はハンガーとパッケーシの事

業が大半となっている。主力商品はプラスチックハンガーで、インナーや子供服、ソックス市場との取り組みが中心。パッケーシは袋物から箱物までアパレル分野が主力。日本国内にプラスチックハンガーやフックの製造グループ拠点をもち、海外は15年前に中国に現地法人を設立した、中国の協力工場での開発、生産体制を確保し、国内と連動した体制を作ってきた。

軽くて壊れにくい設計、製品アイテムに合わせて最も効果的に見えることを想定した設計、きめ細かな商品開発や生分解性プラスチックによる環境対応商品などを生産している。また、デザイン企画機能を社内持っていることによる提案型のビジネスで、国内の大型インナーパレルやSPA（製造小売業）ブランドなどとの取り組みが進み、業績は拡大している。

この間、中国に加えて東南アジアでの現地調達の要望が増えてきているため、対応を強化。3月にタイに設立した会社は現地の協力工場でパッケーシを生

産して販売するが、主力市場は中国とアメリカの食品分野だ。アパレルを主力に対応するのは5月に設立するバングラデシュで、ハンガーとパッケーシを現地で生産、販売する。当面日本のアパレルメーカーを主力にし、欧米市場なども視野に入れ取り組む。日本、中国とも連動させて、安定したフォロー体制を構築する。

中国では内販の取り組みを拡大する。状況次第では、東南アジアの別の地域での「現地法人設立も可能性がある」として、東南アジア全域をにらんだ生産、販売を進める計画だ。